

## 第112回 北海道整形外科外傷研究会

平成17年 8月27日 札幌市教育文化会館  
出席者136名

### 主題：創傷治療に対する一工夫

会長 帯広協立病院 佐藤 幸宏

ここ数年大学からやってくる研修医の先生方がおかしな傷の処置を行う様になって一寸気になっていた。消毒薬は使わないし傷にガーゼもあてず、薄っぺらなサランラップみたいなものを傷に当てるだけなのだ。その傷は汚い膿のような滲出液に包まれとっても不潔そうに見える。なんと大胆なことをするんだろうと思ってハラハラ見ていた。

徐々に情報を集めていくと人類始まって以来引き継がれてきた傷処置に対する考え方が大きく変わる程の旋風が医療現場に吹き荒れていることを知った。その発信者は「消毒・ガーゼ撲滅宣言」と称して既存の方法を悪とまで言い放ち果敢にこれを正すべく挑戦していた。これをまた人類の文化を大きく変えつつあるインターネットという最先端の高速通信手段に載せて、医学教育の場を飛び越えて猛烈な勢いでその理論を臨床の現場に普及させているのだ。音をたてて時代は変わっていく。情報に敏感でなければあつという間に浦島太郎になってしまいそうなスピード社会に戦きを感じるのは私だけではないと思う。

外傷治療家を自称する我々は遅れることなく早めにこの話を聞いておかないとあつという間に時代遅れの臨床家にされてしまいそうで、北海道で2番目の講演を発信者の夏井陸先生にお願いしましたところ快く承知していただきました。当会会員以外の医療職の方々からの問い合わせが殺到して、あまりの多さにお断りした方々も随分いらしたとのことで、その労をとっていただいた事務局には御苦労をかけました。会員以外の方が1000円払ってこんなに参加して頂いたのは当会始まって以来のことと思います。

夏井先生には多くの症例に基づいた豊富な経験を提示していただき、「人間の身体は湿潤環境のもとにありさえすれば治らない筈がない。治らないのはこの環境を保てない何かがあるからである」という先生の強い信念に触れさせていただきました。

当研究会への投稿論文も早々といただきました。またインターネット上に自由に引用可能な症例のスライドなど多くの資料を掲載下さっています。会員一同、感謝しつつ今後の診療の友として活用させていただきたく存じます。(http://www.wound-treatment.jp/)

会員による演題は症例検討2題、一般演題10題、主題4題をいただきました。当初、締め切りを過ぎても集まらず、個別にお願いをしましたところ16題もの御協力をいただき感謝しております。いずれも立派な発表でしたが、時間配分に不行届きがあり質疑応答に時間がとれず、特に後半の方々には不完全燃焼で欲求不満が残ったと思われ申し訳ありませんでした。

会員皆様の御協力をいただき第112回北海道外傷研究会を無事終了することができましたことをここに深く感謝申し上げます。